

令和5年度 第1回学校運営協議会 議事録

日 時：令和5年6月27日(火) 15:30～

場 所：和歌山工業高等学校 2階 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽 氏 (和歌山商工会議所専務理事)

村田 頼信 氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)

梅田 千景 氏 (和島興産株式会社代表取締役)

和田 通尚 氏 (海南市立巽中学校長)

前田 隆一 氏 (本校全日制育友会長)

高垣 晴夫 氏 (本校同窓会副会長)

西村 保展 氏 (本校同窓会副会長)

藤田 勝範 (本校校長)

(学校出席者)

阪中 潤 (全日制教頭) 高橋 洋互 (地域連携担当) 吉田 庄吾 (全日制教務部長)

上野山 幸司 (全日制進路指導部長) 小島 穰 (全日制生徒指導部長)

木田 誠治 (定時制教頭) 山田 泰彦 (定時制教務部長) 坂口 佳隆 (定時制進路部長)

岡本 邦孝 (定時制生徒指導部長)

【1】 開会

【2】 校長挨拶 (藤田校長)

【3】 任命書の交付

【4】 委員紹介

【5】 会長及び副会長の選出

会長：田中一壽氏 副会長：村田頼信氏

【6】 議事 (議長：田中会長)

(1) 学校運営の基本方針の承認

藤田校長より、学校運営基本方針について以下の要旨の説明を行いました。

(校長) 学校運営方針について

成人年齢の引き下げにともない、高校は社会生活の入り口の最終部分であるという意識を高めていく必要がある。

和歌山の未来を担う人材の育成が本校に求められており、生徒の適性に応じて一人一人の能力を伸ばし、「個別最適な学び」を実現したい。また、地域を支える責任や自覚を育み、進学希望者・就職希望者とも大人力、総合力、人間力をつけることが和工の使命である。

スクールポリシーについては、検証をしながら進め、その時々で変更を加えていく。

従来よりも早い時期、1、2年生から県内企業の企業見学に行ったり、就職ガイド等を活用して和歌山の良さを知らせたい。

校内のみで「教育」を完結させるのではなく、企業や地域と連携して生徒の成長を育んでいく、「地域で育てる」を目指す。

(委員) 難しいところではあるが、個人の能力や適性をいかにして伸ばすかに取り組んで欲しい。
早い段階から将来の目標を見極め、基礎学力の確立を目指し、「区切り」を利用して伸ばす工夫をすればよいのでは。「伸びる瞬間」を大切に上げて欲しい。
地域や親を巻き込むことは賛成。

(委員) 進路の決定時期はおよそいつくらいか？

(上野山) 入学当初から入社したい会社が決まっている生徒、求人票を見てから進路を考え始める生徒、3年の後半になっても決まらない生徒もあり、人それぞれである。

(議長) 学校としては、その点についてどう考えるか（この時期までに、とかはあるのか）

(上野山) いつまでというのはないが、普段から工場見学や、先輩の講話などを通じて意識をさせている。現実的には3年生の7月末までには決定するように求めている。

(委員) 「本年度の重点目標」にもあるが、基礎学力の向上のため特に何をしているか

(校長) 「何のために学ぶか」の目的意識を持たせることが大切。スクール・ポリシーにキャリアパスポートを関連付け、スモールステップが見えるようにしていきたい。近・中期・将来に分けて達成すべき目標を設定し、目的意識を持って学習に取り組む際に「学習」を大切にできると考える。コミュニケーション能力など、社会へ出て役立つような力、困らないような力が本当の意味の基礎学力である。

(委員) 全日制と定時制の交流はあるのか？

交流によって学校の活性化にならないか。文化祭など学校行事と一緒に参加してはどうか。

(木田) 生徒の交流は、時間等の理由で難しい。職員は、研修を一緒に行うなどしている。

(岡本) 定時制の生徒の指導が困難であった時代は難しかったと思うが、今の生徒の様子なら生徒同士の交流も可能かと思う。

今は逆におとなしい生徒が多く、人数が多い場所に行くのが苦手な生徒もいる。

専科生など、年齢の高い生徒との交流は有効である。

(委員) 個人を伸ばすのは大事。どのような進路でも工業は無駄になっていない。

県内企業の良さをわかってもらうことが大事である。

DX や ChatGPT などのテクノロジーを使いこなせるようになってもらいたい。

指導目標について

非行防止や薬物乱用防止と健康管理意識の向上という面は、自分自身を大切にするという点では似ている部分がある。何かあった際に友達でもいいので、常に相談できる場を設ける必要があり、自分から相談できるようになるなど、「生きる力」を付けてあげてもらいたい。技術、技能の習得、資格の取得等に関心を持たせ、そのため「しかけ」が必要であり、またそれを可視化することが必要である。

和工出身の先生はどれぐらいの人数や割合があるか？

(阪中) 全体では 25%程度で、工業だけでは 50%近いのではないか。

(委員) 教員になることも進路の選択肢の一つではないか。次の世代を育ててもらいたい。

(委員) 目的意識を持った生徒が増えてほしい。

特に進学する生徒はそれを持っているか。「とりあえず」進学することを選択していないか。中学校の進学指導が、高校受験に失敗しないように、機械科や電気科を避けているようなことはないか。中学校では、各科の状況や進学先・就職先などについても、生徒に説明できているか。高校が中学校にどうアプローチするかを考え、もっと工業高校をアピールしてほしい。

(委員) 18 歳成人について、生徒達の受け止め方はどうか。

最近の子供達は精神的に弱いように思う。相談の場が必要ではないか。

成人教育をもっと行うべきではないか。

(阪中) 生徒は、18 歳成人をきちんと意識できていないように感じる。

昨年、自分はもう成人している年齢なのに、「大人は嫌い」と言って卒業していった生徒がいたことが印象的であった。

(木田) 定時制の生徒についても、18 歳成人の自覚を促す取組をすすめているかの観点では課題を感じている。

(委員) 和工ハウスプロジェクトはどうなっているか。

(阪中) 施工は来年、今年は設計の段階と考えているが、今のところ動かせていない。

(委員) プロジェクトとしては、継続していると認識しておく。

(議長) 校長の学校運営の基本方針の説明を受けて、委員の皆さんからは、以下のご意見を得た。

- ・ 節目節目の「区切り」を利用して、生徒が「伸びる」瞬間を大切にする
- ・ DX を使いこなす教育
- ・ 心身の不安定な生徒をどのように支援するか
- ・ 18 歳成人を意識させる

以上のことも踏まえた上で、校長の運営方針を承認してよろしいか。

特に異議無く承認されました。

(2) 学校の現状（資料説明）について

(阪中) 全日制の 4 月からの様子を資料を基に説明

(木田) 定時制の 4 月からの様子を資料を基に説明

(阪中) コロナについて、校内感染は出なくなったが、最近発熱等で休む生徒が増えている。生徒のマスク着用率も 50%を切っているような状況である。

(3) 次回の協議題について

(委員) 18 歳成人の意識アンケートとれないか。

あわせて、なぜ工業を選んだのか、きっかけは何だったのか、今後の進路についてどう考えているかについても調査し、次回に協議できればよい。

(議長) 定時制と全日制の交流や中学校へのアプローチなど、企業としてできることは協力します。

【7】 今後の会議日程について

資料に綴じている調査表を 7 月 10 日までにご提出いただき、日程調整をさせていただくこととした。

【8】 閉会